



栄養通信

第9号

今回は**半固形化注入法**についてお知らせしたいと思います。

もともと私たちの食事は口腔内で咀嚼し半固形の状態で嚥下します。しかし、液状栄養剤をゆっくりと注入すると、通常の食事のような消化管運動が起こりにくく、消化吸収能にも影響があります。そこで、半固形注入法を行うことで、口腔内から食道をバイパスしてはいますが、短時間である程度のポリウムを持った粥状物が胃内に入るため、より生理的な蠕動運動や消化吸収が期待できると考えられています。

半固形化注入法の適応例

- ・ 胃食道逆流がある場合
- ・ 瘻孔からの注入食のリークがある場合
- ・ 注入速度を調節しても下痢が続く場合（半固形にすることで通過速度が遅くなるため）
- ・ 不穏で体位保持が困難な場合
- ・ 痰の量が過剰で頻回な吸引を必要とする場合
- ・ 長時間の同一体位による褥瘡発生、悪化のリスクがある場合 など

半固形化注入法の適応外

- ・ 胃に異常のある患者（高度の食道裂孔ヘルニアのある患者、胃切除後の患者など）
- ・ 腸瘻の患者（腸では液状である方が生理的だから）
- ・ 腸閉塞の既往のある患者 ・ 便秘の患者 ・ 消化吸収障害のある患者

半固形化注入の方法

- ①注入食を注入する前に胃内残留が無いかシリンジで引き、確認する
- ②体位を30度以上ギャッジアップする
- ③胃内残留が無ければ白湯をシリンジでポーラス投与する
（白湯を後から投与すると、注入食の粘稠度が低下する恐れがあるため、必ず先行投与する）
- ④約30分後に胃内残留が無いか再度シリンジで引き確認する
（250cc以上残っていれば、数分後に再度胃内残留をチェックする）
- ⑤胃内残留が250cc以下になれば、注入食につるりんこ1包をだまにならないように混ぜる
（胃酸と反応し胃の中で固まるので、混ぜたときはサラサラの状態がよい。また、つるりんこの量は注入食の量によって調節が必要。目安は300mlに対しつるりんこ3g（1包））
- ⑥混ぜたあとは5分以内にシリンジ注入する
（時間をおくとトロミが強くなり注入できなくなる可能性がある）
- ⑦注入し終わったあとは、少量の白湯でフラッシュする（EDチューブの閉塞を防止するため）
- ⑧注入後30分以上は30度以上のギャッジアップを続ける

半固形注入法を行う場合の注意点

- ・ チューブの閉塞防止のため **10Fr 以上**の ED・NG チューブを使用する
- ・ 注入時は粘稠度が低いですが、胃内で胃酸と反応し粘稠度が増す。**タケプロンなど胃酸分泌抑制作用のある薬剤の投与下では十分な粘稠度が得られないため、ムコスタなどへ変更してもらう必要がある**
- ・ 便秘を生じる場合もあるため、排便状況のモニタリング、**排便コントロールを行う**必要がある
以上のことに注意して、投与を行って下さい。
- ・ 注入食の粘稠度が通常に比べ高いので、注入食が逆流し誤嚥した場合、重篤な状態になる可能性があります。**注入中、注入食投与後30分は必ず30度以上のギャッジアップを行って下さい。**